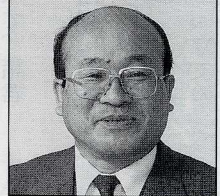


# 新入生へのメッセージ

## — 教官から・先輩から —

### 自己の内なるものを磨け

広島大学長 ◆ 原田 康夫



新入生諸君、入学おめでとう。

諸君は本日広島大学に入学した。心から喜び給え。人生において、感激して涙を流す機会はそれほど多いものではない。

いま、諸君は青春の真っただ中にある。諸君の人生で最も感受性の高い時期は今である。諸君は若いエネルギーあふれるままに望むべきであり、実行すべきである。時には若さのあまりであることもあるかもしれないが、それが青春なのである。

いま、日本の若者は知的好奇心が急速に薄れてきている、といわれている。現在の構造的不況を乗り越え、二十一世紀に、さらなる繁栄を我が国にもたらすためには、諸君は知的好奇心が旺盛でなければならぬ。知的好奇心こそ創造的仕事に結びつくものであり、これからの日本社会を救

う最大の特效薬である。

また、大学に入った今、自分が何をしたいか？ 何が好きか？ 自分に問いかけ、自分を探索しては如何であろうか。これこそ自分が一生を通じて求めるものであると思っただら、学問であれ、趣味であれ、これを究めたいと願い、継続し、実行することである。

願いが強ければ強いほど、心に響くものがある。またそれが自分の感性に伝わり、やがては自分の天分の発見というに至るものである。広島大学は、諸君の知性、徳性、また感性を磨く場としては、最高の場である。

広島大学は、八十万坪近い新キャンパスへ本年度をもって移転を完了し、学内施設、書物も情報も人もすべてそろっている。諸君がこの機会を無為に過ごすなら、我々の年代になって如何に悔やんでも追いつかないであろう。

諸君の希望に燃えた今、熱のあるうちに自己の内面への投資が多ければ多いほど、諸君のこれからの人生を豊かにするものと思うのである。即ち、諸君が志を高くもち、考え、学び、自己の内なるものを磨くことにより、感性が磨かれ、直感力が出てくるのである。

また、大学は師と友に出会う場でもある。心を開いて夢を語り、青春とともに謳歌する友と、これからの人生の方向づけのために諸君が師をさがすのも大学である。自己の内なる心を磨くことにより、師も友も、自分に最も共感できる人たちに出会えるものである。

今は総じて国際化の時代である。諸君たちの時代は、交通のスピード化、情報網の緻密化により、地球は更に狭くなると思われる。特にアジアは、諸君のより身近なものとなるであろう。

なるであろう。

今年は、第十二回アジア競技大会も広島で開かれる。これからは、如何に諸君がアジアを知り、近隣諸国の発展のために役に立つ人間になるか、が今後の日本の発展につながるものである。広島大学は六百名近い留学生とともに、全学をあげてアジア大会に協力することになっている。諸君も、この機会にぜひともボランティア活動をを通じて、アジアをより身近なものにしてほしいと思うのである。

さて、諸君に求められるものは、あらゆる分野での基礎的学問の積み上げである。今、情報化時代といわれるだけに、諸君は情報の中で浮遊する生活であってはならない。情報は、選択して利用してはじめて自分のものとなるのである。如何なるものが必要であるか選択し、問題点を見つけ、体系づけて、自分のものとしてはじめて役に立つのである。諸君が広島大学での生活において、生涯の目標を見つけ、それに情熱をもって日々精進されることを願っている。

(はらだ・やすお)